

診療所
待合室

「がん」は国民病です
「みんなでがん検診を
受けましょう」

大山町役場保健課

がんは、日本では昭和56年より死因の第1位となりました。現在では、年間30万人以上の人ががんで亡くなっていますので、3人に1人の死因はがんということになります。また、生涯のうちにかんにかかる可能性は、男性の2人に1人、女性の3人に1人であり、日本人にとって、がんは『国民病』となっているのです。

このように、身近ながんという病気が私たちの生命や健康にとって重大な問題であることから、一層のがん対策の推進を図るため、国では平成18年6月に「がん対策基本法」を、その1年後には、「がん対策推進基本計画」を策定しました。

この計画では、がん対策の総合的かつ計画的な推進を図るため、全体目標として「がんによる死亡者の減少」、「すべてのがん患者やその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」の2つを掲げるとともに、これらの全体目標の達成に向けて、①がん医療、②医療機関の整備など、③がん医療に関する相談支援および情報提供、④がん登録、⑤がんの予防、⑥がんの早期発見、⑦がん研究、という7分野の施策を国民に示しています。



私たちががんで死なないためには、がんにかからないようにすることが大切です。がんは遺伝するといわれていますが、実は、遺伝によるがんは5%程度と少なく、むしろ喫煙や食生活、運動などの生活習慣が原因であることが多く、これらに気をつけることでがんの発症率を下げることはできるようです。

しかし、発症率を下げるため生活習慣の改善に心がけたとしても、それをゼロにすることはできません。医学の進歩などにより、がんは、現在、約半数の方が治るようになりました。特に進行していない初期の段階で発見し、適切な治療を行うことで、非常に高い確率で治ります。そこで大切なのが、町が取り組んでいる「がん検診」です。がんを初期の段階で見つけることができる「がん検診」は、がんの死亡率を下げるのに非常に効果的です。

特に40代・50代の働き盛りの人が、自分自身や家族を守るための最も手軽な方法が「がん検診」なのです。「自分は健康だから」「元氣だから」と思い込んでいる人こそ、ぜひ「がん検診」を受けていただきたいものです。

大山恵みの
里だより
vol. 38

アグリフードEXPOで
大山ピーナッツ

2月15日と16日の2日間、大阪・アジア太平洋トレードセンターにおいて、「アグリフードEXPO2011」が開催されました。

全国から約200の農業関係者が出展し、国産農産物の展示商談会が行われました。多くのバイヤー・関係者が集まる中、大山町からは「大山



▲アグリフードEXPO2011の様子

町担い手育成総合支援協議会」が中心となってプロックリーと大山ピーナッツを出展しました。

恵みの里公社では、大山ピーナッツ生産組合のお手伝いとして、道の駅で販売している大山ピーナッツ4種を来場者に試食アピールしたところ「千葉産に引けを取らないおいしいピーナッツですね」「大山というイメージがいいですね」など、多くの方に好評で手ごたえを感じることができました。

4月29日は道の駅誕生祭

道の駅大山恵みの里はお陰様でこの4月で開業2周年を迎えます。皆様への感謝をこめて誕生祭を催します。

◆日時 4月29日(金・祝)

9時30分～15時30分

◆会場 道の駅駐車場

楽しい催し物と、豪華景品の当たるガラポンもご用意しております。ぜひ、お出かけください。